

#### (4) 五島市久賀島地先における“春藻場”造成 (2011～2013年)

キーワード：春藻場、ウニ駆除、ウニの身入り改善

【背景】久賀島地先では、クロメや多種のホンダワラ類が分布する四季藻場が形成されていましたが、2005年以降、四季藻場が衰退・消失して磯焼けが進行し、アワビ等の磯根資源が減少しています。そこで、2011年から海藻を増やして磯根資源の回復を図る取り組みが始まりました。

【方法】磯焼け帯に大量に分布するガンガゼ類やムラサキウニを素潜りにより潰す駆除が継続して行なわれました (図 2-26A)。

【結果】ウニ駆除を行った漁場では、駆除後2年目では小型海藻類が海底面を覆うほど増加し、一部ではホンダワラ類もみられるようになりました (図 2-26B,C)。このようなウニ駆除の継続により、3年間で久賀島北西部地先の玄海鼻～百合崎に至る 1.5ha の漁場では、以前の無節サンゴモ類主体の磯焼けから小型海藻類を主体に海藻が繁茂するようになりました。

このことで、ムラサキウニは身入りが改善され、ウニが漁獲されるようになり、ウニ漁業によるウニの低密度管理が図られるようになりました。また、海藻が増えた場所ではアワビ稚貝の放流が行われ、その後の成長が確認されており、今後のアワビ資源の増加が期待されています。

【考察】久賀島地先では、長崎県各地の藻場の変化と同様にクロメ等の四季藻場が消失して磯焼けへと変化しており、藻場の回復阻害要因として、ウニと魚の食害の影響が大きいと考えられています。このような漁場環境でもウニ駆除を行うことで、小型海藻類が容易に増えてムラサキウニの身入りが改善することが示されました。また、ウニ駆除効果で、ホンダワラ類がみられるようになり、今後、ウニ駆除と併せて母藻設置を行うことで、春藻場の造成に繋がることを期待されます。

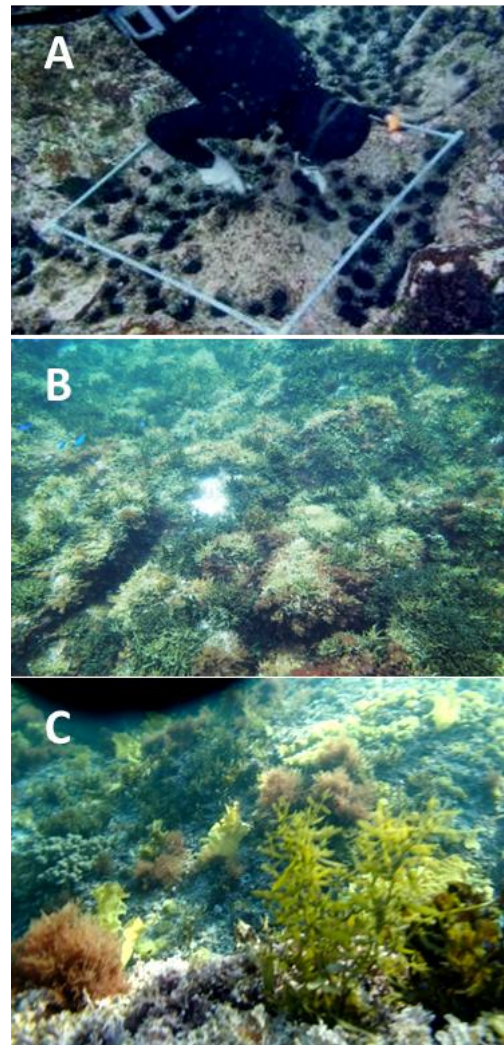


図2-26 久賀島地先における藻場回復の取り組み

A：磯焼けした漁場およびウニ駆除作業、B、C：ウニ駆除2年後の海藻の繁茂状況、小型海藻の繁茂 (B)、大型褐藻類の出現 (C)